

藤沢市社会教育委員会議  
令和6年度2月定例会

議 事 録

日 時 2025年(令和7年)2月10日(月)  
場 所 藤沢市役所本庁舎 8階 8-1・8-2会議室

# 令和6年度藤沢市社会教育委員会議2月定例会

日時： 2025年（令和7年）2月10日（月）  
午前10時から

場所： 藤沢市朝日町1番地の1  
藤沢市役所本庁舎8階 8-1・8-2会議室

1 開 会

2 議事録の確認

3 議題

(1) 「生涯学習ふじさわプラン2026」の進捗管理について

4 報告

5 その他

6 閉会

(出席委員)

西村雅代・三宅裕子・大川千幸・新沼範之・平野まり・柴山弥生  
稲川由佳・鳥居恭好・三浦悠介・小笠原貢・保川昌弘

(事務局)

横田参事・浅上主幹・守屋課長補佐・菅谷上級主査・渡邊職員

\*\*\*\*\* 午前10時00分 開会 \*\*\*\*\*

西村議長                    これより社会教育委員会議2月定例会を始めます。前回に引き続き、本日も会議の進行にご協力のほどよろしくお願いいたします。それでは初めに、事務局から欠席委員の確認および会議の成立についてご報告をお願いします。

事務局                    藤沢市社会教育委員会議規則第4条の規定により、審議会の成立要件として、委員の過半数以上の出席が必要とされておりますが、委員定数15名に対し、本日の出席委員11名であることから会議が成立いたしましたことをご報告申し上げます。欠席委員は沙田委員、清水委員、西田委員、手塚委員です。

西村議長                    本日、傍聴者はいらっしゃいますでしょうか。

事務局                    いらっしゃいません。

西村議長                    事務局より本日の資料の確認をお願いします。

事務局                    (資料の確認)



長・副議長と相談させていただきながら、報告書として確定する中で整理させていただければと考えているものです。説明については以上でございます。

西村議長

それでは説明のありましたように、字句についてお気づきの点があれば、後ほど会議終了後にご意見をいただければと思います。今回につきましては、内容について、この報告書の形でよいかの確認を進めてまいりたいと思います。事前に一度お目通しをいただいているかとは思いますが、最初から確認していきますので、よろしく願いいたします。

なお、前文につきましては特段の変更がございませんでしたので、割愛させていただきます。

それでは基本目標1についてご確認をいただきたいと思いますが、字句について、事務局から説明はありますでしょうか。

事務局

3ページの(2)課題提起のところ、イでは若年世代や勤労世代という言葉になっております。次に、ウの冒頭では若年世代と高齢世代という、「世代」という言い方になっておりますが、同じ文の3行目では「高齢者に対しては」となっています。高齢世代という字句が前半にありながら、高齢者という言葉も使われている点をご指摘として伺っております。

またこの4ページにつきまして、ケの文章は「図書館には子どもから年配の方」と記載されています。先ほどの「若年世代」に対して「子ども」があり、「高齢世代」に対しては「高齢者」、そして「年配の方」となっており、言葉が統一されていないというご指摘がございました。

西村議長

各委員からの意見をまとめた結果、それぞれの方の表現がそのまま使われてしまっているという形ですから、全体を通した中でこれから修正をかけたいと思います。これらについては事務局と議長・副議長に

おまかせいただければと思います。それ以外の部分で、皆様からご意見ございますでしょうか。

(意見なし)

それでは次に進みたいと思います。基本目標の2について、同様にお願いいたします。

事務局

お伺いしている部分としていたしましては、先ほどと同様です。これは例えば(2)の課題提起のAに「子ども」という言葉があります。ただ、ここについては「子どもがいることや親も関係して」という文脈の中での表現にはなっております。

西村議長

では、字句の調整以外で、内容について皆様のご意見はいかがでしょうか。

(意見なし)

それでは次に参りたいと思います。基本目標3をご覧ください。6ページです。こちらにつきまして、内容に関してのご意見等ありましたらお願いいたします。

稲川委員

稲川でございます。この基本目標3の(2)課題提起のAですが、「実際にニーズがあるか」というところから、伝えたい内容がわかりにくいと思います。「丁寧に突き合わせをしていくことが望まれる」とありますが、何を丁寧に突き合わせるのか、あるいは「そのようなルートを作っていければ」というような文言も、何のことかなという疑問が湧きましたので、ご説明いただけるとありがたいと思います。お願いします。

三宅副議長

私の発言なので説明いたします。例えば、「勉強した」ということについて、どこか活躍の場があって、それに向かって勉強しているのか、それとも、まず勉強してから、その活動のフィールドがあるのか考えて

みるのか、大別できると思います。発言の意図としては、後者にならないように、という意味でございますので、活動のフィールドについて、実際にニーズがあるか丁寧に突き合わせていく必要があるということ、決まった活動の方向があるのならそこに向かって集中していけるのではないかと、そういった意味合いです。ただ、言葉が切り取られて今のような形になってしまったのかと思っています。ですから、最初からそういった活動の方向があれば、そちらの方向にルートを作っていく、目的があつての学習であるほうがわかりやすく、取り組みも意義が明確になるのではないかと、そういった意味で発言いたしました。文章については、後で整理させていただきます。

西村議長

具体的な事業をイメージしての意見ではないので、このままではわかりにくかったかなと私も思いました。では、この部分につきましては、事務局と議長・副議長で調整をさせていただきまして、もう少しわかりやすい形にしたいと思います。その上で、決定版という形で皆様にお渡ししたいと思いますので、ご了承いただいてよろしいでしょうか。

[異議なし]

その他ありますでしょうか。小笠原委員お願いします。

小笠原委員

少し戻りますが、5ページの、基本目標2「学べる機会」を提供する」の(2)カです。「活動に参加できる動線」という文章ですが、この「動線」の漢字は「導」が適切かと思います。

西村議長

動きの方ではなく、導くの方でないという意味が通じないということですね。事務局もよろしいですか。

事務局

ご指摘ありがとうございます。そのように修正させていただきます。

西村議長

それでは基本目標3もよろしいでしょうか。続きまして、基本目標4についてお願いいたします。

(意見なし)

特段ご意見がないということで、次に進めさせていただきます。事業全体に対する評価につきまして、ご意見がございましたらお願いします。

(意見なし)

前回にたくさんのご意見いただきましたので、今日は確認という形で大変恐縮ですが、特段ないということでよろしいでしょうか。それでは全体を通して、もしご意見等あればここで伺いたいと思います。

事務局

さかのぼることになり恐縮ですが、事前にご指摘いただいた点として説明した、世代の表現について補足を申し上げます。若年世代と勤労世代、高齢世代ということで、基本目標1の(2)イとウについてです。イで使っている「世代」という表現は、プランの19ページを見ていただきますと、基本目標1での表現が「若年世代や勤労世代」ですので、ここに準じているものです。また、ウのご意見ではデジタル・ディバイドに関する話をしていますので、プランの「世代」という表現に対応させ、「高齢世代」としております。

西村議長

プランに記載されている各課事業の書き方、表現の仕方をそのまま使っているということであれば、ここを調整しなくても、大丈夫だと理解してよろしいでしょうか。

事務局

イとウについて、そのまま問題ないと考えております。

西村議長

では、これから最終調整をさせていただくときに、プランに書いてある文言をもう一度確認しながら進めてまいりたいと思います。ただいまの

話を踏まえると、ウの後半の「高齢者」は「高齢世代に対しては」に統一したほうがよいということですね。では、そういった事務局が調べてくれた部分も含めまして、もう一度見たいと思います。

その他全体としてありますでしょうか。では鳥居委員お願いします。

鳥居委員

取りまとめてくださった方につきましては、大変お疲れ様でございました。事前にお送りいただいたこの報告書案を一通り拝読しまして、私としてはすんなり理解できました。ただ、先ほど稲川委員がおっしゃったように、この会議に参加してきたからすんなりと理解できたのだと思います。そうでない方がお読みになった場合に、曖昧にしか理解できないとか、意味がスムーズに入っていないことが危惧されます。自分が文章を書くときは、基本的に、関係のない人に一度読んでもらい、「これで意味が伝わりますか」と確認をしています。この報告書についても、時間のない中かもしれませんが、一度この報告書の取りまとめに関わっていない方に見ていただいて、確認した方がよいかと感じました。

西村議長

プランに書かれている事柄については、「プランに書いてある」という前提があるため、意見の中で具体的に言及がない場合もあります。プランを見ていない方が読むとわからないところも出てくる可能性もありますので、それも踏まえ、また事務局と調整させていただきたいと思えます。

続いて、副議長お願いします。

三宅副議長

先ほどの文章についてです。例えば、「活動の場が用意されているのか、実際にニーズがあるのか、丁寧に突き合わせしていくことが望まれる。決まった方向性が示されることで、そこに向かっていく取り組みに集中できて、またその活動自体のフィールドも広がってくると考える。そのような活動の場と学習の場のルートをきちんと作っていくこと

が大切であるとする。」というような形ではどうでしょうか。言葉の精査はまだ必要かもしれませんが、今思いついた範囲で直せる案として、このように直すとは少し意味をわかっていただけるかなと思います。勉強してから探すのではなく、ニーズが存在する場所があって、そちらに向かっていくのがよいのではないのでしょうかというような内容でございます。以上です。

西村議長

文字で見てもないと確定できないかと思いますが、非常にわかりやすくなったと思ったので、そういった面も含めて、修正をさせていただきたいと思います。その他全体を通してありますでしょうか。

それでは、前回までに多くのご意見がありましたが、本日も細かなご指摘をいただいています。改めてになりますが、事務局と議長・副議長で最終調整をさせていただき、最終決定版が出来ましたら皆様にお送りすることよろしいでしょうか。

[異議なし]

それでは、報告書の報告書の作成についてはこれで終了したいと思います。よろしいですか。

では次第4「報告」に移ります。まず、稲川委員から神奈川県社会教育委員連絡協議会地区研究会についての報告をお願いいたします。

稲川委員

それでは皆様にご報告させていただきますが、資料の3をお手元にご用意いただければと思います。令和6年度神奈川県社会教育委員連絡協議会の地区研究会が大磯町にて行われ、出席してまいりました。2月4日火曜日、午後1時半から、大磯プリンスホテルのメインバンケットホールで行われました。主催は神奈川県社会教育委員連絡協議会で、主管は大磯町社会教育委員会でした。地区研究会は県内の各市町村の社会教育委員が一堂に会し、それぞれの地域での取り組みや社会教育の今日的課題について研究協議・情報交換をすること

によって資質の向上を図るということを目的としています。

今回の地区研究会のテーマは「～心豊かなひとづくり、まちづくりのために～大磯町第三次生涯学習推進計画の展開」でありました。

ページを開いていただきまして、こちらに当日の式次第が書いてあります。まず式典と、続いてアトラクションがあり、NPO法人大磯ガイド協会による「ぶらり大磯～大磯の歴史・文化散歩～」として、大磯に住んだ8人の首相のことを交えながら、大磯町の案内がありました。また、大磯観光協会の寸劇仕立てで、伊藤博文と吉田茂の会話というようなものもあり、わかりやすくその歴史文化についても語られました。続いて人権講話があり、大磯町社会教育委員であり、ヤマザキ動物看護大学准教授の加藤理絵氏から、「自然豊かな大磯町と子どもたちのウェルビーイング」というタイトルで、大磯町の子どもたちを対象とした調査に基づく講演がありました。当日に加藤氏がお使いになりました資料は、3ページに掲載されています。アンケート結果と分析については、こちらの通りです。

そして本題であります「大磯町第三次生涯学習推進計画の展開と課題」に関しましては、3つの事例発表がありました。それにつきましては4ページ以降になります。大磯町の施策の体系については、この4ページにございます。こちらの資料に基づいて事例発表が行われましたが、今回は基本施策の「ひとづくり」から、①「子育て・家庭教育支援」、②「青少年教育」について、そして基本施策の「つながりづくり」から④「情報の一元化」についてでした。

子育て・家庭教育支援は、子ども会の課題が取り上げられました。どの地域も同様と思われませんが、大磯町でも今まで30あった子ども会が、現在は12に減少しています。少子化、共働き、習い事が増えて、活動に参加することの負担感が大きくなっています。そのため、負担感の少ないつながりづくり、コミュニティ作りを目指して、子ども会の活動会費の廃止、連絡等のデジタル化、多世代参加型のコミュニティ作りを行うこと、また自治会に入っていれば誰でも参加できるようにするなど、今、余力のあるうちに新しいことを進めるということでした。

そして青少年教育でのひとつづくりについては、現在の状況について、経験をする機会を失っているということ、学びの格差があること、情報のみがあふれていること、「生きづらい時代」という具合に時代を捉えて、人の顔が見える活動ができるようにすること。また今後、社会教育が人にも地域にも広がり、受ける機会が増えていくこと、そして、社会を組織する人を増やしていくことを方針として活動していくということでした。

最後に、つながりづくりの「情報の一元化」についてですが、これは情報を共有し、発信することであり、知の循環型社会の取り組みを行っていくということで、ここでは3つの学びについて取り上げられました。1つは「好きなことでの学び」——例えば、サッカーを通して地域学校協働活動などを行うといったことです。2つ目は、「地域に関わる学び」で、小中学校9年間で学びの期間と捉え、国指定重要無形民俗文化財である左義長——これは道祖神の火祭りですけれども、これを毎年学び、つないでいく。3つ目としては「交流によるつながりと学び」ということで、長野県の小諸市とのスポーツ交流を行っています。また、異文化交流としてはスウェーデン留学生との交流や、大磯こどもサミットでのウガンダ共和国との交流などを行っていました。事例発表は以上でしたが、社会教育委員だけではなく、社会教育関連団体の委員も発表に加わっていらっしゃいました。

大磯町は、人口は約3万1000人、小中学校は4校と、非常に小規模です。NPO や社会教育関連団体や、他の団体とも連携して地域の文化資源を活用し、地域外に向けた発信と社会教育活動に積極的に取り組まれていると思いました。これは、小規模という利点を生かした、お互いの顔が見えるやり方で、わかりやすい連携であると思います。出席してみて、それをやっていることで、非常に活動がしやすくなっていると感じたところです。以上です。

西村議長

報告ありがとうございました。私も一緒に参加させていただきましたが、やはり規模、地の利も含めた長所を、特色として強く出している点を感じることができました。それにより思ったのは、「藤沢らしさ」に立ち

返ったときに、やはりそれを踏まえた上での生涯学習ふじさわプランの形も考えていかなければいけないということです。いずれにしろ、大磯町は規模が小さいというメリットを十分に生かしています。藤沢の場合は規模が大きいので、これをどう生かすかがある種の課題といえますか、この点をメリットにしていけるかなと思いついてきました。

さて、その他に報告事項はありますか。ないようですので、5「その他」に入りたいと思いますが、どなたからもお伝えすることなどはありませんでしょうか。

それでは、本日はスムーズな進行になりました。皆様におかれましては、会議の進行にご協力いただきありがとうございました。次回の定例会につきましては、事務局からお願いいたします。

事務局

次回定例会につきましては、2025年4月21日月曜日午前10時から正午までの開催を予定しております。委員の皆様には、定例会のおおむね2週間前に、開催通知と前回の議事録をメールでお送りいたします。その際に議題や会場等についてもご連絡させていただきます。また議事録にお目通しいただいた後、修正箇所がございましたら、次回定例会の前までにご連絡いただきますようよろしくお願いいたします。

西村議長

それではこれで2月の定例会を終了いたします。

\*\*\*\*\* 午前10時40分 閉会 \*\*\*\*\*